

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 愛知教育大学附属特別支援学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例: 小中高一貫 )  
所在地 〒444-0072 愛知県岡崎市六供町八貫15  
E-mail fuyou@m. auecc. aichi-edu. ac. jp  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 43 名 女子 19 名 合計 62 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 18 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点~平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「共生教育の推進」を活動テーマに掲げ、ESDを「人とのかかわりを通して、社会的な意識を高め、社会に参加できる態度を育むこと」と捉え、ESDの実践を通して、社会におけるコミュニケーション力の育成を目標とした。具体的には、「なかよしタイム」(異年齢集団での活動)、「共生教育」、「地域交流」を柱に、以下の活動を行った。今回の報告は、今年度取り組んだ「共生教育」について報告する。

### ① サツマイモのつるさし

(1) 実施方法

- ・ 附属岡崎小学校の児童と本校児童生徒の出会いの会を行う
- ・ 学校園にて、つるさし名人(本校職員)から説明を聞く
- ・ グループごとにつるさしをする

(2) 活動の様子

本校の児童がうまく穴を掘ることができない状況を見て、附属岡崎小学校の児童が「こうやって掘るんだよ」のように声をかけて、一緒に穴を掘る様子が見られた。また、本校の生徒が「一緒にやろう」と声をかけて活動する様子も見られた。

## ② サツマイモ掘り・収穫祭

### (1) 実施方法

- ・ つるさしを一緒に行った附属岡崎小学校の児童を、「なかよしタイム」で活動する異年齢集団に配属し、一緒にいもほりをする
- ・ 後日、本校収穫祭に招き、一緒にいもを焼いたり、食べたりする

### (2) 活動の様子

附属岡崎小学校の児童が「あっ、大きなサツマイモがある。」と畝を指差すと、本校の生徒も畝を見たり、手で一緒にいもを掘ったり、掘り終わった後、「大きなおいもが採れたね。」と言い、ハイタッチをしたりする様子が見られた。また、収穫祭では、一緒に湿らせた新聞紙にサツマイモを包んだり、本校の児童が「あそこに入れるんだよ。」と附属岡崎小学校の児童に教えたり、焼き上がったサツマイモを食べて、「おいしいね。」と顔を見合わせたりする様子が見られた。

## ③ 休み時間の交流

### (1) 実施方法

- ・ 月に1回程度、附属岡崎小学校の児童と本校の児童が、本校小学部運動場で一緒に活動する
- ・ 本校児童生徒が、附属岡崎小学校の遊具で一緒に活動する

### (2) 活動の様子

本校の児童がブランコで遊んでいると、附属岡崎小の児童が近づき、押してあげたり、隣でブランコに乗ったりして遊ぶ様子が見られた。また、本校の児童が「〇〇が追いかけてくるぞ、逃げろ」のように、附属岡崎小の児童をどこ遊びに誘うと、一緒に運動場を走ったり、遊具に上ったりして遊ぶ様子が見られた。



①いっしょにつるさししよう



②-1 大きなおいもがでてきたよ



②-2 おいもを火の中に入れよう



③みんな、にげよう

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他( 共生教育 )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、「人とのかかわりを通して、社会的な意識を高め、社会に参加できる態度を育む」という重点目標を掲げている。そして、本校の願う子ども像を以下の3点としている。

- ・人とかかわることの楽しさや喜びを感じられる子
- ・主体的に人とかかわることのできる子
- ・人からの働きかけを受け入れることのできる子

このような子どもを育てるために、本校では、「ふようタイム」（様々な人、もの、こととのかかわりをねらいとした領域・教科を合わせた学習の時間）の時間に、「なかよしタイム」（異年齢集団での活動）、「共生教育」、「地域交流」の3つを教育活動の柱としてESD教育を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、主幹教諭が中心となって、各部のESD担当者と連携し、日程調整、活動の計画・実行を進めている。継続的に行われている各部または全校の行事や交流活動の目的をESDの観点からとらえ直し、活動後には、担当者から反省点や改善点を挙げてもらい、次回（次年度）に生かせるようにしている。また、全職員にも情報提供をし、所属する部が変わっても、情報を共有できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

行事や活動での子どもの様子から、担任・副担任が変容をとらえ、評価している。また、全職員にアンケートを実施し、子どもの様子や職員の意識の変容をとらえている。平成29年度は、学校内部の評価のみであったが、保護者へのアンケートを実施したいと考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

平成29年度は、昨年度に引き続き、コンソーシアム愛知主催による、全国特別支援学校ESDフォーラムに参加し、実践報告をした。全国のESD推進校の様々な実践を知ることができた。特に共生教育については、本校の近隣の学校と進めているので、大いに参考になった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

平成28、29年度に、コンソーシアム愛知主催による、全国特別支援学校ESDフォーラムに参加し、実践報告をした。また、共生教育の分野では、日本教育大学協会研究集会に参加し、実践報告をした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

愛知教育大学の附属学校として、岡崎地区には3校ある。その3校で、平成28年度より、共生教育の推進をしている。子どもたちの各校の行事への参加や授業への参加だけでなく、教師間の授業研究の分野での交流も進めている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

何度も他校の子どもたちと交流することで、人とのかかわりの幅が広がり、人からの働きかけを受け入れることのできる子どもが増えた。本校で行われている「なかよしタイム」では、高等部の生徒が小学部の児童と手を繋いで移動したり、手助けをしたりしている様子を以前より、多く見られるようになった。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度の反省を踏まえ、来年度は、以下の3点に重点を置き、実践したいと考える。

- ・ 今年度実践したことについて、反省を踏まえ、改善して取り組んでいく。
- ・ 近隣の学校と連絡調整を密にし、本校の子どもたちの実態に即した交流活動ができるようにしていく。
- ・ 「なかよしタイム」（異年齢集団での活動）の実施日を原則、固定し、人とのかかわりを広げる効果的な活動にしていく。